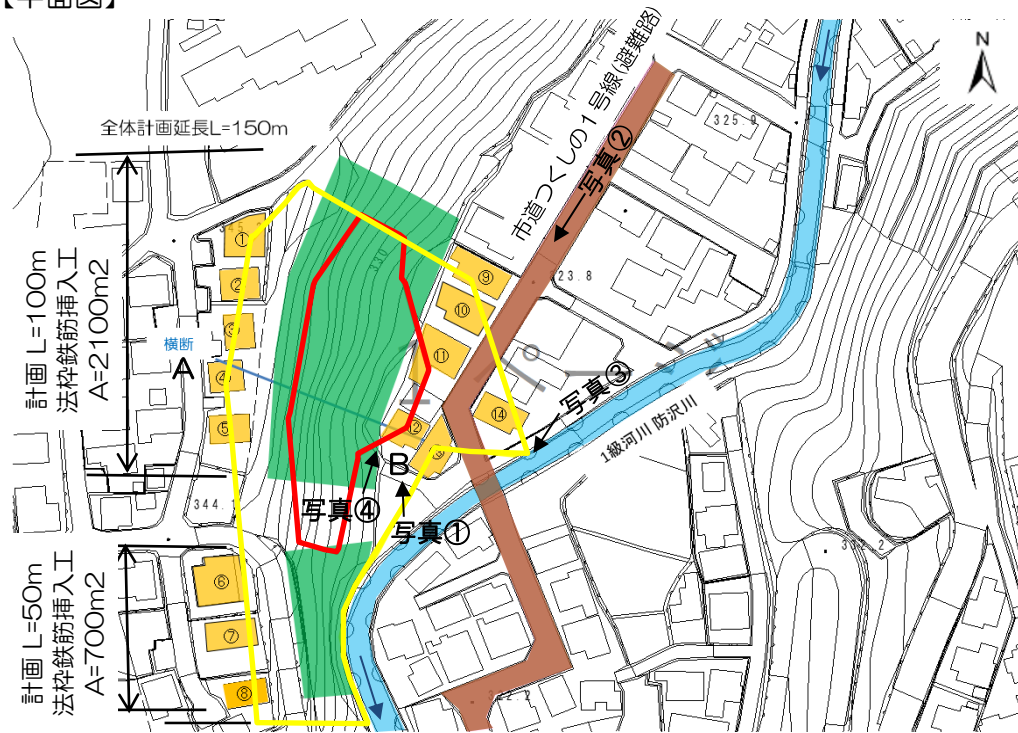


1. 事業説明シート

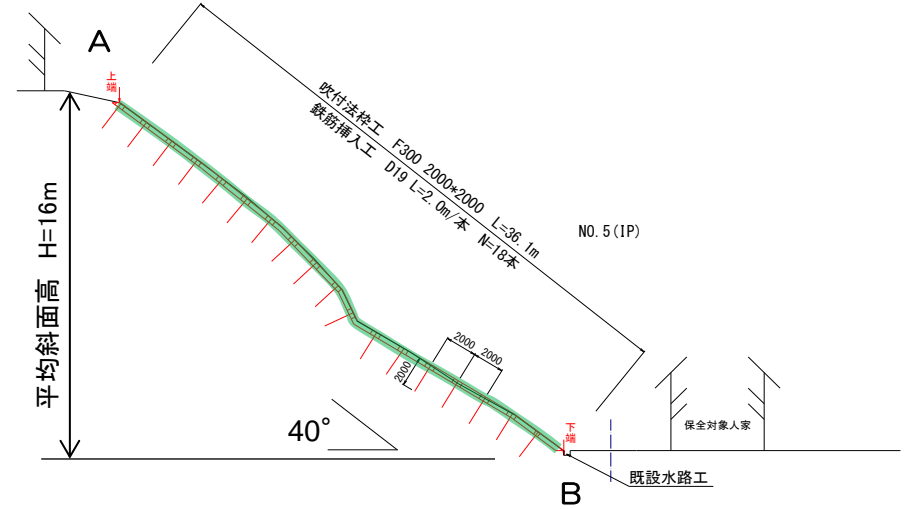
事業名	急傾斜地崩壊対策事業 [急傾斜地崩壊対策事業 (国補)]		事業箇所	甲斐市岩森	地区名	つくしの-1 (ツクシノノイチ)	事業主体	山梨県																																														
(1) 事業の概要					(3) 事業の妥当性評価																																																	
①課題・背景 つくしの-1 地区は、山梨県中部の甲斐市岩森に位置する急傾斜地であり、平成22年3月18日に土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている。 当該斜面は平均斜面高16m、平均勾配40度の急傾斜地で、保全対象には人家14戸、市道 (避難路)、一級河川があり、当該斜面が崩壊した場合には、人命に影響のある災害が発生する可能性があるため、事業の実施が急務である。					妥当 妥当でない ①公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か) 急傾斜地法第12条により、行政が行うことが妥当。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table>				○																																													
					○																																																	
②事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか) 急傾斜地法第12条により、行政が行うことが妥当。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table>				○		③経済妥当性 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table>		○																																														
○																																																						
○																																																						
②整備目標・効果 □主要目標 ○崖崩れ被害の防止 ・災害実績：無 ・保全対象：人家14戸、市道 L=9m、一級河川防沢川 L=40m ・重要公共施設の有無：有 市地域防災計画で位置づけられた避難路 (市道) 合計14戸>5戸以上※ ※評価基準値					<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:20%;">総事業費</td> <td style="width:20%;">250 百万円</td> <td style="width:10%;">工期</td> <td style="width:10%;">R3~R9</td> <td style="width:10%;">基準年</td> <td style="width:10%;">R2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>222 百万円</td> <td>便益</td> <td colspan="3">578 百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>222 百万円</td> <td>一般資産被害</td> <td colspan="3">519 百万円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>百万円</td> <td>公共土木施設等被害</td> <td colspan="3">8 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>人的被害</td> <td colspan="3">51 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>その他※</td> <td colspan="3">百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B/C</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3" style="text-align:right;">2.6</td> </tr> </table> 費用便益比 (B/C) は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。					総事業費	250 百万円	工期	R3~R9	基準年	R2	経済効率性	費用	222 百万円	便益	578 百万円			建設費	222 百万円	一般資産被害	519 百万円			維持管理費	百万円	公共土木施設等被害	8 百万円					人的被害	51 百万円						その他※	百万円				B/C			2.6		
	総事業費	250 百万円	工期	R3~R9	基準年	R2																																																
経済効率性	費用	222 百万円	便益	578 百万円																																																		
	建設費	222 百万円	一般資産被害	519 百万円																																																		
	維持管理費	百万円	公共土木施設等被害	8 百万円																																																		
			人的被害	51 百万円																																																		
			その他※	百万円																																																		
	B/C			2.6																																																		
□副次目標 — □副次効果 —					④事業実施・規模の妥当性 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table> 地形状況を考慮し、必要最小限の規模とした。				○																																													
○																																																						
(2) 整備内容					⑤整備手法の有効性 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table> 地形・地質状況から最も効果的・経済的な工法とした。				○																																													
○																																																						
①整備内容 法枠鉄筋挿入工 A=2,800m ² ②着手年度 令和3年度 ③完成見込年度 令和9年度 ④総事業費 約250百万円 (国費:112.5百万円(4.5/10)、県費:112.5百万円(4.5/10)、その他:25百万円(1/10))					⑥環境負荷等への配慮 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table> 環境負荷の少ない工法を採用する。				○																																													
○																																																						
⑤年度別の整備内容 (事業費) 令和3年度 地形測量、地質調査、詳細設計 30 百万円 令和4年度 用地測量・調査、用地取得・補償 30 百万円 令和5年度 法枠鉄筋挿入工 40 百万円 令和6年度 法枠鉄筋挿入工 40 百万円 令和7年度 法枠鉄筋挿入工 40 百万円 令和8年度 法枠鉄筋挿入工 40 百万円 令和9年度 法枠鉄筋挿入工 30 百万円 ※記載内容は見込みであり、確定したものではない。					⑦事業計画の熟度 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> </table> 地元要望に基づいており、市から受益者負担金の同意は得られている。				○																																													
○																																																						
⑥既整備内容・期間・事業費 未整備					総合評価 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:80%;"></td> <td style="width:20%; text-align:center;">[貢献度ランク:a]</td> </tr> </table>					[貢献度ランク:a]																																												
	[貢献度ランク:a]																																																					
(4) 事業位置図等																																																						

2. 添付資料シート

【平面図】



【標準横断面図】



- 計画範囲 ■
- 土砂災害警戒区域 ■
- 土砂災害特別警戒区域 ■
- 保全対象人家 ■
- 道路 ■

【写真】

保全対象：人家①



保全対象：市道②



保全対象：防沢川③



斜面状況④

